

11.

くろがね 鉄山
紅葉の安達太良山
福島県安達太良山・湯川溪谷

2001.10.13. BY M.Nakanishi



『あれが安達太良山 あのひかるのが 阿武隈川』

と高村光太郎「智恵子抄」で歌われた安達太良山。

山地図に『鉄山』『くろがね小屋』の名前をみつけ、ここにも『Iron Road』とでかけました



グリーンピア二本松付近からの安達太良連峰



安達太良山 勢至平の紅葉

頂上を雲にかくし紅葉した安達太良連峰 秋 2001.10.13.



くろがね小屋付近の紅葉 2001.10.13.

東北新幹線の車窓から左手に那須連邦の山々をながめ、郡山を過ぎて磐梯の山々を探しつつ、次に見えてくるのが、ゆったりとした稜線と森に包まれた優美な姿を見せる安達太良連峰。さらにその北には吾妻連峰が連なっている。

山群の中央稜線の上にぼつりと乳首のようにごま粒の岩山が乗っているのが、主峰安達太良山。別名乳首山。また、その右に鉄山の名前をもつ楕円の小さな岩山が見える。



地図を見ていて 安達太良の山の稜線に

「鉄山」の名を見つけ、この鉄山から切れ落ちた谷の一角に「くろがね小屋」の名があり、是非行ってみようと思った次第。

いつものごとく朝一番の東北新幹線に飛び乗り、郡山で乗換え、二本松へ。空は晴れているのに安達太良連峰の頂上付近には厚い雲がかかっており、あの特徴的な稜線は全くみえず。快晴の吾妻連峰一切経山に登った時も吾妻小富士の向こうに見える安達太良山の頂上部だけは雲が巻いていた。やっぱり雲の発生しやすい山なのかもしれない。

「奥岳コンドラリフトに乗って 奥岳頂上駅から五葉松平ー安達太良山ーくろがね小屋ー湯川溪谷・塩沢温泉へのコースをゆっくり紅葉を楽しみながら・・・
まあ 天候は回復の方向 雲も午後にはとぶだろう」と二本松駅から奥岳駅行のバスに乗った。

岳温泉を經由して奥岳登山口へのバスから見安達太良連峰は堂々とした山塊。奥岳登山口 奥岳ゴンドラ山頂山頂部は雲の中下はすっかり紅



駅付近にあるが、その葉して青空に映えている。

【1】奥岳登山口から 五葉平を安達太良山頂上へ

ゴンドラから見る安達太良山の山腹は赤と緑のまだら模様が積み重なった素晴らしい景色。しかし、高度が上がるにつれ、ガスがまわりを包む。奥岳頂上駅では雨まじりの霧と強い風が吹いている。

紅葉の一番きれいな時期とあって、多くの人が霧雨の中、紅葉した山腹の登山道を一列になって安達太良山へ向かって登ってゆく。

周り一面はあざやかな紅葉。紅葉の間に松の緑が点々と散らばり、まるでデザインされた壁紙か布地模様のように素晴らしい。

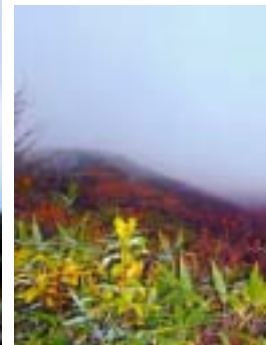
紅葉の林の中を、風と雨交じりの霧が景色をかき消しながら、泥んこの逃げ場のない山道を一列に登ってゆく。すべると逃げ場が無いので、時間がかかる。結局この泥んこ道が安達太良山稜線直下まで続いた。

まあ、周りの紅葉を楽しみながらなので、救われたが、足周りはもうどろどろ。



五葉松平の 紅葉

2001.10.13.



安達太良山の頂上は見えないが、灌木帯の木々が全面が赤や黄色に紅葉し、松の緑とあいまって素晴らしい紅葉である。

その紅葉が、霧の流れや日差しに呼応して 時々刻々その色が変化してゆく様は自然だけが持つ美しさ。

【2】 安達太良山 頂上 近傍 2001.10.13.



稜線は霧雨と強風の中 山はやっぱり「鉄の山」-

安達太良山の頂上の岩山には、ベンガラ色やこげ茶の岩がゴロゴロしていました。 やっとどろどろの樹林帯を抜け、稜線へのガレ道にかかるが、もう風と霧雨。

時折風に吹き飛ばされた時に見える山腹の紅葉が美しいが、一瞬。頂上の方は完全に雲の中。上に登るにつれ、視界がきかなくなる。

視界の利かぬ霧の中、稜線に出るが、猛烈な風。うすぼんやりと霧の中に頂上の岩山が見える。多くの登山客が風をよけるかのように岩山の陰に身を寄せ合っている。



馬の背・鉄山の方も全く視界が利かない。残念ながら、安達太良山の内部に抱かれた巨大な爆裂火口も全く見えず。

乳首山の元となった頂上の岩山は鉄分の多い赤茶けた色をした岩と砂が混じり合っている。

鉄山は全く見えないが、やっぱり、ここは「鉄の山」と納得。



霧と強風の悪天候で馬の背から鉄山への稜線やあの巨大な爆裂火口「沼の平」は全く見えず 風が強く全く視界かきかず、風を避けて霧の中を稜線から右へ下り、峰の辻からくろがね小屋へ行く事にした。



安達太良山 頂上 猛烈な風と霧の中



安達太良山 山頂近傍の岩山 鉄分を多く含んでいるように見えた



【3】 頂上から峰の辻を経て 姿勢平へ

峰の辻はまだ霧の中であったが、直ぐ下は風も収まり、峰の辻はまだ霧の中であったが、下るにつれし
かがひらけ、色づいた木々の絵模様が幻想的に飛び込んできた。前の人に合わせ 峰の辻を約5分ほ
ど下ったところで、この道が勢至平から奥岳駐車場に行く尾根筋の道であることにきずいた。もう一度
峰の辻まで引き返そうかとも考えたが、時間も早しいし、視界の開けている名残が原まで紅葉で美しい樹
林帯下り、そこからくろがね小屋の方へ回る事にしてそのまま下った。

峰 の 辻 付 近



峰 の 辻



後ろに安達太良山岩山



紅葉した山腹

広い灌木の生茂る勢至平は紅葉真っ盛り。紅葉した灌木の背景に針葉樹の緑が美しい。また ダテカン
バの幹の白と黄色く色づいた葉のコントラストも変幻自在で楽しい。

スライドのように、霧が次々と絵模様と色合いを切り換えてくれる。紅葉の中の緑が美しい。多くの
group がそのまま山を降りたのか、ほとんど人影もすくなくなり、静かに山の紅葉が楽しめた。

姿 勢 平 の 紅 葉 2001.10.13.



【4】 くらがね 小屋 周辺 の 紅葉



姿勢平を出た所で鉄山直下のくらがね小屋と奥岳とを結ぶ整備された登山道へ出た。
多くの人は奥岳の方へ。僕だけ反対方向・・・。

尾根筋から湯川溪谷の深い谷へ落ちる山腹につけられた平坦な道を 10 分も歩くとV字の深い谷いっぱい広がる紅葉が見えてきた。

真っ赤と緑と黄色のまだら模様がぎっしり谷の山腹いっぱい広がっている。これぞ山の紅葉。





安達太良の紅葉は「緑の入った濃度の濃いまだら模様
の美しさ」と聞いていたが、どこにもない美しさ。

谷筋の奥に茶色のくろがね小屋が紅葉の中に埋もれ
ている。まるで、その鮮やかな色あいにおとぎ話の
絵本の中の世界にいるかのような錯覚にとらわれて
いた。



湯川溪谷

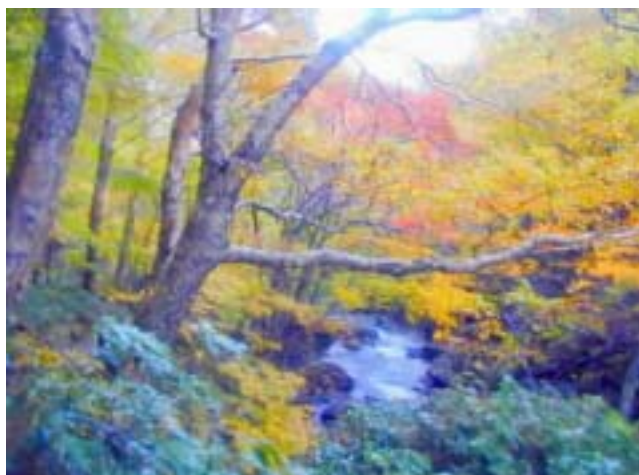
くろがね小屋付近の紅葉 2001.10.13.



信州の山の紅葉は「頂上部の雪の白・中腹の紅葉・下の緑」の『三段紅葉』とよく言われるが、
安達太良の紅葉は全山『赤・黄・緑の絵模様絵本の世界』
やっぱり一度見る価値のある素晴らしい紅葉である。

この紅葉の美しさを知らなかったのは私だけか くろがね小屋の回りは人があふれている。
谷の上部 くろがね小屋の上にある鉄山はやっぱり雲の中。
どんな山か見たかったのですが、今日はダメ。

【5】くろがね小屋 から 湯川溪谷・八幡滝 を経て 塩沢温泉 へ

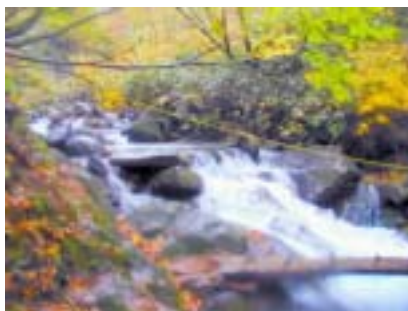


この谷の美しさをパスする手はない。予定通り霧雨まじりであるが、湯川溪谷の谷道にあり、川沿いに塩沢温泉へ降りる事にする。

ほとんど人が居なくなり、今度は静かに谷筋の紅葉が楽しめる。まさに紅葉の中を下ってゆく。

谷筋の細い道で 雨がふり、水量が多く多くの瀬が滝のごとく流れ下り、水の流れと紅葉のコントラストが美しい。また 山の斜面から、行く筋かの滝がながれおちているのも美しい。

湯川溪谷 溪流沿いの紅葉



【6】 湯川溪谷 八幡滝をつめて



1時間弱で天狗岩の大きな岩の縁をくさりを伝って通り抜けると、向かいの沢から大きな滝が流れ落ちている。八幡滝である。

大きな一枚岩から本流へ垂直に流れ落ち、高さはさほどないが幅の広い滝で、周りの紅葉とよく調和して美しい。見上げると沢全体が滝で、奥へ滑滝状に滝が続いている。

その滝の上から鎖を伝いながら一人降りてきた。少しすべるが、奥まで行けると言う。

まだ 時間もあるし、少し滝道を行く事にする。登って判ったが約1KM弱が滝の連続。滝の流れの縁を鎖や熊笹を伝いながら岩の上を滑らぬよう注意しながら登る事になった。

滝と紅葉とすばらしい景色。奥へ奥へで結局一番奥の上の滝までのぼりつめた。雨上がりの水量の多さも手伝って本当に美しい景観である。

登りはルンルンであったが、一番上の滝つぼの所で地図にある道がなくなり、ふみ後も消え廃道。もう空が開けているのだが、引き返す事やむなし。行きは良かったが、くだりはすべるので慎重に滝の縁を下る。下の滝に降りた時には正直ほっとした。



【7】 塩 沢 温 泉 で

夕闇がせまる中 また、渓流沿いを下る。川にはまた、いくつか滝がかかっていたが、もうスピード。午後1時半過ぎにくろがね小屋を出発しての湯川渓谷沿いの下りであったが、紅葉を楽しみながら また、八幡滝をつめたこともあり、塩沢温泉に降りたのは午後5時前。塩沢温泉に降りると雨も上がり、天気は回復していた。

あいにくの霧雨で山の展望は全くゼロでしたが、山腹の紅葉は紅葉と緑のまだら模様が素晴らしく、久しぶりに「これぞ東北 山の紅葉」の感。満足。

塩沢温泉は真っ暗な空を見上げながらの森の中の露天風呂。変化にとんだ素晴らしい紅葉を見た1日でした。

塩沢温泉は鉄山の麓であり、まっ茶な鉄分の多いお湯を期待したのですが、無色透明。静かな森に包まれた渓谷の一軒屋。でも、やっぱり安達太良は「鉄分の多い岩峰」と言い、「鉄山」「くろがね小屋」の名があるとおり、『ここも鉄のふるさとかなあ・・・』なんて思いながら・・・・・・・・

2001.10.13. 塩沢温泉にて 真っ暗な夜空をみあげながら

By M. Nakanishi



くろがね 鉄山 紅葉の福島県安達太良山 【完】